

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 国語（書写を含む。）	国語科概論 Introduction to Japanese Language	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	『小学校学習指導要領(国語)』の目標に則して国語指導の在り方について学ぶ。物語文および説明文の指導案作成の演習を行う。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	小学校国語	学修教育目標	日本語に対する基礎的な知識を理解し、小学校教員として現場で、国語科の授業の指導ができる基礎を培う。			
-------	-------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業形態としてはシラバスにのっとり、講義には視聴覚教材やプリントを用意する。学習指導要領に重心を置く。小学生にとってのふさわしい教材の発見や指導の仕方なども学ぶ。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の専門教育科目はすべて関連性があるのでよく予習復習すること。履修に必要な最低の予備知識としては、できれば自分の小学生のころの教科書やノートを探して手元に置いてほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『初等国語科教育』（ミネルヴァ書房） 小学校学習指導要領（平成29年3月告示版）解説国語編 小学校国語教科書			・保育所保育指針（平成29年3月告示版） ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示版）			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	主として学習指導要領の知識と理解を深めることができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	実践的な教材の発見等を通して指導技術を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	◎
	② 計画力	計画を立てプレゼンをする力を養う。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30			20		100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10			20		30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習指導要領の理解と、国語科の指導案の作成ができ、かつ教員になるために必要な基本的な姿勢が十分に身についている。					学習指導要領の主な内容が理解できており、国語科の指導案の書き方を理解し、かつ教員になるに必要な資質についても理解を示すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業ガイダンス、初等国語科教育の意義と目標 初等国語科教育の構造と変遷 初等国語科教育の意義と目標について理解できる。 ・子どもの実態（言語生活）と教科としての専門的内容 ・子どもの実態（言語生活）と他の教科等における教科内容との関連について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第1章・第2章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第2回 /	初等国語科教育の学習指導と評価 国語の特質に関する事項の指導 学習評価の観点と方法に関する基礎的・基本的な事柄について理解できる。 日常生活に必要なものを実際の言語運用を通して身につけさせる指導について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第3章・第4章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第3回 /	情報の扱い方 伝統的な言語文化の指導 新設「情報の扱い方に関する事項」について理解できる。 我が国の言語文化に関する事項について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第5章・第6章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第4回 /	書写の指導（演習） 文字の「形（書き）」「音（読み）」「義（意味）」の指導について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第7章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第5回 /	読むことの指導①—説明的文章— 説明的文章とは何かについて理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第11章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・説明的文章教材研究の予習	予習 30 復習 30
第6回 /	説明的文章教材研究（指導案作成①） 説明的文章の構造を理解できる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・説明的文章指導案作成の予習	予習 30 復習 30
第7回 /	説明的文章指導案作成（指導案作成②） 説明的文章の単位時間の授業の導入・展開・まとめの流れを理解できる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・自作説明的文章指導案工夫したところプレゼン準備	予習 30 復習 30
第8回 /	説明的文章指導案発表会（指導案作成③） 説明的文章の教材の指導案を創ることの楽しさ、難しさを実感することができる。	講義と演習 ・説明的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第9回 /	読書指導 話すこと・聞くことの指導 様々な読書の学習指導法について理解できる。 コミュニケーションは、直接的、対面的関係に支えられていることが理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第8章・第9章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第10回 /	書くことの指導 日常生活における書く力を育成し、自律した書き手を育てることが理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第10章・要点パワーポイント提示・資料 「先生ってすばらしい」冊子	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第11回 /	読むことの指導②—文学的文章— 自力で文学的文章を読めるようにすることができる。 物語の効用や楽しみを知っている大人に育てることができる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第12章・要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習 ・文学的文章教材研究の予習	予習 30 復習 30
第12回 /	文学的文章教材研究（指導案作成④） 文学的文章の特徴を理解することができる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・文学的文章指導案作成の予習	予習 30 復習 30
第13回 /	文学的文章指導案作成（指導案作成⑤） 文学的文章の単位時間の授業の導入・展開・まとめの流れを理解できる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・自作文学的文章指導案工夫したところプレゼン準備	予習 30 復習 30
第14回 /	文学的文章指導案発表会（指導案作成⑥） 文学的文章の教材の指導案を創ることの楽しさ、難しさを実感することができる。	講義と演習 ・文学的文章教材指導案の書き方資料	・学修該当箇所教科書の復習 ・次回学修該当箇所教科書の予習	予習 30 復習 30
第15回 /	入門期の指導 メディアリテラシー・ICTの指導 小学校での学習スタイルに習熟できるようにする。 国語科における情報活用能力の育成について理解できる。	講義と演習 ・教科書（「初等国語科教育」）第13章・第14章要点パワーポイント提示	・学修該当箇所教科書の復習	予習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 社会	社会科概論 Introduction to Social Studies	2単位	必修	講義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>小学校社会科の歴史や特質、現状の課題についての理解を深めるとともに、各学年の社会科の内容に関して、それを教える際に必要な基礎的知識の習得を図るとともに、具体的な授業構成を行う際に求められる教材研究の方法について理解を深めることをねらいとする。</p>					
キーワード	社会科教育 市民的資質 地域学習 産業学習 歴史学習 政治学習	学修教育目標	社会科教育の歴史や地域比較から、中等科社会科教育の意義が理解できる。 適切な教科内容の教材化をすすめ、授業方針を決定することができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
社会科とはから、これまでに社会科がどのように教育されてきたか考え、具体的に小学校で教えなければいけない社会科の内容について考える。 授業の内容で分からないことは、授業の後や授業以外でもどんどん質問して、解決しておくこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
教科教育法（社会）などの理解につながります。 できるだけ新聞などの教育・社会関係の記事を読んで、社会の動きを理解しておくこと。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：小学校学習指導要領解説 社会編 著者名：文部科学省編 出版社：			適宜指示する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校で社会科を教えるための基礎的な知識を理解出来る。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	地図帳や統計資料、年表などの資料を効果的に活用することができる。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけて解決しようとする事ができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40					10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	30						70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	10						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会科教育の変遷を十分理解している。 小学校社会科の教科内容を十分理解している。					社会科教育の変遷を理解している。 小学校社会科の教科内容を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	社会科模擬授業を体験する。社会科の授業観の転換	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第2回 /	社会科授業づくりにおける教師の役割を考える	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第3回 /	社会科で何を教えるのか。学習指導要領に示された各学年の目標・内容を解説書から読み解く①	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第4回 /	社会科で何を教えるのか。学習指導要領に示された各学年の目標・内容を解説書から読み解く②	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第5回 /	3・4学年の教科内容論（1）学習内容・地域学習の内容、及び、関連する学問的知見	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第6回 /	3学年の教科内容論（2）地域の土地利用または地域の産業に関連する教科内容論、地域の公共事業に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第7回 /	4学年の教科内容論（3）地域の土地利用または地域の産業に関連する教科内容論、地域開発の歴史に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第8回 /	学習指導案をどのように作成したらよいか。単元の目標と評価規準、単元の指導、計画本時の目標、本時の展開の書き方	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第9回 /	5学年の教科内容論（1）地域学習の内容（2）国土・環境学習（日本の地形など）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第10回 /	5学年の教科内容論（3）産業学習（日本経済・産業の現状）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第11回 /	5学年の教科内容論（4）社会の情報化と産業の関わりに関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第12回 /	6学年の教科内容論（1）政治学習（憲法、三権、政治の働き）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第13回 /	6学年の教科内容論（2）歴史学習（人物・文化遺産の歴史）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第14回 /	6学年の教科内容論（3）国際学習（他国の文化、生活）に関連する教科内容論	講義・質疑応答	予習：30分、復習：30分	60
第15回 /	学修のまとめ、教科内容論（教科内容を振り返って）	講義・質疑応答	復習：30分	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 算数	算数科概論 Introduction to Mathematics	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	算数科の内容を数学的・教育的な視点からとらえ、算数の学習を系統的な見地から学修する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の目標 数学的活動 算数科における五領域 評価の観点・規準 	学修教育目標	数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用など、各領域の数学的意味と内容を理解することができる。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

算数科における各領域の内容とその領域に応じた指導方法の概略を学修します。その際、具体的な数学的活動を通して、理解を深めていきます。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教科教育法（算数）						
-----------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編』 著者名：文部科学省 出版社：日本文教出版	授業中に適宜指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	算数科における基礎的な理論や指導するために必要な内容・方法等の専門的な知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	単元全体を見通した指導案をつくることができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年（1年～6年）に応じた指導内容の系統性を理解する。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価						20			20
	応用力に関する評価		20				10			30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 算数科における基礎的な理論を十分理解している。 指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導案を作成することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 算数科における基礎的な理論を理解している。 指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導案を作成することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、算数・数学教育の意義	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数・数学教育についての復習	30
第2回 /	算数・数学教育の変遷と今日的課題 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数・数学教育についての復習	30
第3回 /	数学的な活動、数学的な表現について 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	数学的活動、数学的な表現についての予習	30
第4回 /	学習指導要領（算数科）の目標と内容 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	学習指導要領についての予習	30
第5回 /	「数と計算」領域の内容(1) ー整数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「数と計算」領域の予習	30
第6回 /	「数と計算」領域の内容(2) ー小数・分数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「数と計算」領域の復習	30
第7回 /	「測定」領域の内容 ー量の概念と測定の4段階についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「測定」領域の復習	30
第8回 /	「図形」領域の内容(1) ー図形の構成要素についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「図形」領域の予習	30
第9回 /	「図形」領域の内容(2) ー図形の相互関係についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「図形」領域の復習	30
第10回 /	「変化と関係」領域の内容 ー関数についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「変化と関係」領域の復習	30
第11回 /	「データの活用」領域の内容 ー統計についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	「データの活用」領域の復習	30
第12回 /	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(1) ー領域ごとの系統性を考慮してー 指導案を作成する	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための資料収集	30
第13回 /	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(2) ー単元間の関係を考慮してー 指導案を作成する	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案の作成	30
第14回 /	授業の実際 ー作成した指導案に基づく模擬授業と具体的な指導についてー 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導案作成のための改善	30
第15回 /	算数・数学教育のまとめ、評価と指導について 振り返りを書く	・講義 ・グループ・ディスカッション	算数の評価についての復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 理科	理科概論 Introduction to Science	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	理科に対する基礎知識を修得することと理科教育に対する興味関心を持つこと。	
	キーワード	理科教育

学修教育目標

教員として必要な理科知識を身につける。理科の面白さを児童生徒に伝えることができるようになることが目標である。

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では基本事項の説明を行い、それに基づいた演習や課題を課す。テーマを決めて全員の前で模擬授業を行う機会も与える。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

小学校教職免許取得希望者はB判定以上で合格する必要がある。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：小学校学習指導要領解説 理科編
著者名：
出版社：

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校教員になるために必要な理科の素養を身につけること。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。	◎
	② 働きかけ力	分からないことがあっても、自分で調べたり質問することができる。	○
	③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験、課題や模擬授業に備えた授業外での学修ができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	どのように学修すればできるようになるか自分で見いだすことができる。	◎
	② 計画力	模擬授業や試験に合わせ、計画的に学修を進めることができる。	◎
	③ 創造力	新しい疑問の解決に自ら取り組むことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	模擬授業で準備した内容を発表できる。	○
	② 傾聴力	他者の発表を聞き、その内容に対してコメントすることができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		5	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45			10				55
	技能に関する評価		5			10				15
	応用力に関する評価		5		5	5				15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					5			10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
理科学全般について基本事項を理解し説明することができる。					授業で扱った基本事項を理解し、説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生物分野（1）生物と無生物、進化論	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第2回 /	生物分野（2）動物（成長・動き）、人間	講義	授業内容の復習と発表準備	60
	課題			
第3回 /	生物分野（3）植物（発芽成長）	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第4回 /	生物分野（4）遺伝子（DNA、RNA）	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第5回 /	物理分野（1）素粒子、エネルギー	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第6回 /	物理分野（2）運動	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第7回 /	物理分野（3）電気、磁気	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第8回 /	物理分野（4）光の性質、レーザー	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表と課題			
第9回 /	化学分野（1）空気（酸化・還元）、水	講義と発表	授業内容の復習と発表準備	60
	発表			
第10回 /	化学分野（2）無機化学	講義と発表	授業内容の復習	60
	発表と課題			
第11回 /	化学分野（3）有機化学	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第12回 /	化学分野（4）身の回りの化学製品（プラスチック、薬）	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第13回 /	地学分野（1）宇宙：太陽と星の動き	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第14回 /	地学分野（2）地球：地表の動きと天候	講義	授業内容の復習	60
	課題			
第15回 /	地学分野（3）プレートテクトニクスと地震	講義	授業内容の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 生活	生活科概論 Introduction to Domestic Behavior	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	生活科教育についての基礎的な理論や学習活動を展開するうえで必要な内容構成・指導方法について学修する。					
キーワード	・生活科の目標 ・評価の3観点	学修教育目標	生活科の変遷をたどり、生活科の必要性を理解する。また、生活科の教科特性に注意し、授業展開を考えることができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
生活科における内容とそれに応じた指導方法の概略を学修します。その際、具体的な活動を通して、理解を深めていきます。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
教科教育法(生活)						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：小学校学習指導要領解説 生活科（平成29年告示） 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	生活科における基礎的な理論や指導するための内容・方法の専門的な知識を身につける。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	単元全体を見通した学習をつくることができる。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	学年（1年～2年）に応じた指導内容の系統性を理解する。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために活かそうとすることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価						20			20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10		10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 生活科における基礎的な理論を十分理解している。 指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、作品を作成することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 生活科における基礎的な理論を理解している。 指導内容と指導方法についての理解をもとに、作品を作成することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、子どもの生活の変化と学びの変化	講義、演習	生活科についての復習	30
第2回 /	生活科誕生の経緯 － 生活科とは － 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての予習	30
第3回 /	生活科の目標と内容(1) － 学習指導要領の概要 － 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第4回 /	生活科の目標と内容(2) － 24ヶ月のカリキュラム － 作品・振り返りシート	講義、演習	カリキュラムについての復習	30
第5回 /	生活科の目標と内容(3) － 小学校第1学年の内容 － 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第6回 /	生活科の目標と内容(4) － 小学校第2学年の内容 － 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第7回 /	生活科と総合的な学習の時間との関連について 作品・振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第8回 /	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの意義 作品・振り返りシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第9回 /	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの実際 ワークシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第10回 /	生活科の指導計画・指導内容について ワークシート	講義、演習	学習指導要領についての予習	30
第11回 /	生活科授業の実際 ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第12回 /	生活科学習指導案の構想と作成（1） 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第13回 /	生活科学習指導案の構想と作成（2） 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第14回 /	生活科で育みたい資質・能力とその評価 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第15回 /	生活科のまとめ	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 音楽	音楽科概論 Introduction to Music	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼稚園・保育所における音楽表現や小学校における音楽教育に必要なピアノ演奏法に必要な知識と技術を習得する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	楽典・ピアノ演奏・弾き歌い	学修教育目標	ピアノ演奏技法の基礎を習得する。 - 主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法を習得する。 身体表現のためのリズム曲のピアノ演奏法を習得する。（幼稚園・保育所・小学校） 小学校歌唱共通教材曲や子どもの歌の伴奏法、および弾き歌いの技法を習得する。（小学校）			
-------	---------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

幼児教育や初等教育において、教師が行うピアノ伴奏や弾き歌いに必要となる知識・技能を習得する。自己の知識や技能の向上を図るとともに、教師としての指導力・実践力の獲得をめざす。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

・幼児教育、初等教育における自らの音楽経験 ・ト音記号・ヘ音記号で表記される楽譜の読み方						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論 著者名：今川 恭子 出版社：教育芸術社	書名：改訂ポケットいっぱいのおた 実践こどものうた簡単に弾ける 144選 著者名：監修・編著：鈴木恵津子 富田英也 出版社：教育芸術社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	楽典に関する基礎的知識を身につける。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	ピアノ伴奏に必要なピアノ演奏技能、弾き歌いの基本的な技能を習得する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	△
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考・判断することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	○
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	△
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	◎
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現の創造をめざすことができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		30				100
評価の指標	知識に関する評価		20	20						40
	技能に関する評価		20			10				30
	応用力に関する評価		10							10
	チームワーク力に関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価					10				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典に関する基礎的知識を確実に身につけることができる。 ・ 曲想を理解し、それを表すために適切なテンポや強弱を工夫しながらピアノ演奏をすることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典に関する基礎的知識を概ね身につけることができる。 ・ 楽譜に記された記号等を理解し、一定程度正しくピアノ演奏をすることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / 参加態度	ガイダンス	講義	予習：楽典について 復習：楽典予備課題	予習：30 復習：30
第2回 / ワークシート、参加態度	初歩的な楽典 － 楽譜の読み方、楽譜と鍵盤の相互関係の理解、タッチの方法等	講義・演習	予習：楽典予備課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第3回 / ワークシート、参加態度	音、音の読み方、リズム、記譜法について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第4回 / ワークシート、参加態度	音程について	講義・グループワーク	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第5回 / 演奏技能、参加態度	個別指導（1）音と音程について個別指導	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第6回 / 演奏技能、参加態度	個別指導（2）楽譜と音・音程について個別指導	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第7回 / 発表の内容、参加態度	個別指導の総評と弱点克服ならびに小テスト	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第8回 / ワークシート、参加態度	音階について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第9回 / 演奏技能、参加態度	個別指導（1）音階	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第10回 / 発表の内容、参加態度	個別指導（2）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第11回 / ワークシート、参加態度	和音（コードネーム）について	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第12回 / ワークシート、参加態度	メロディについて	講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第13回 / 演奏技能、参加態度	個別指導（1）独奏と伴奏について	個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第14回 / 発表の内容、参加態度	個別指導（2）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
第15回 / 発表の内容、参加態度 振り返り	個別指導（3）総評と総仕上げ	グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 図画工作	図工科概論 Introduction to Arts and Crafts	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解を深める。 小学校学習指導要領における図画工作科の指導において必要とされる知識及びその内容を理解し、子どもの表現能力を引き出す教育についての理論と実際を学修する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	図工科概論 子ども・造形・表現・特性・素材・教材	学修教育目標	子どもの造形表現の発達段階を学習し、造形教育のありようを理解し、説明できる。 教科の目標と内容を理解するとともに実際の体験を通して授業における基礎技法習得や指導の実践力と評価を身につけ、造形素材のもつ特性や教材としての可能性に注目し、素材を生かした教材作りができる。			
-------	-----------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> 理論と実際を学修することで、相互に理解を深め造形の概念の統合を図る。 作品の評価基準については、グループワーク等でのディスカッションを通し、共に考え造形表現の意味について考察する。 授業での配布物はワークシートとして保存し、受講時に持参する。 単元ごとの授業終了後に必要に応じて課題レポートを提出、授業内容の習得状況と振り返りをする。 事前学習・ふり返りを重視する。 作品の評価等については、グループワークや発表を実施し、活発な討議を期待する。 						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<ul style="list-style-type: none"> 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 保育所、幼稚園、小学校等における行事の参観や美術館のイベントに積極的に出向き、自身の感性をより豊かにするように推奨・期待する。 毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして活用する。 						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書		参考書・リザーブブック
書 名：小学校図画工作の基礎 著者名：樋口一成 他 出版社：萌文書林	小学校学習指導要領解説「図画工作」文部科学省（文教出版）	

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭に必要な専門知識(教育要領・保育指針・学習指導要領 等)を身につける。	子どもの心身の発達段階が理解できる。	△
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	様々な素材の表現方法を知る。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	素材体験を通して、子どもの表現活動についての発達段階を知る。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	素材の特性や教材としての可能性に触れ、子どもの造形表現について理解できる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	幼児教育(間接教育)から小学校教育課程(直接教育)への教育の連続性に鑑み、子どもを支援していく方策を考える。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実際の体験を通じて、造形素材のもつ特性や教材を生かし造形教育の可能性に注目する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断して自発的にとりくむことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	自身の発想を生かし、豊かな創造性が発揮できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (受講態度等)	合計
総合評価割合			41		15	9	25		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		5	2	5			37
	技能に関する評価		10		5	2	10			27
	応用力に関する評価		3		2	3	5			13
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		3		3	2	5		10	23
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解する。また、造形表現の理論と技能の習得および実践の相互に理解を深め、統合した取り組みができる。					子どもの造形表現の発達を知り、実際の体験を通じて子どもの表現教育についての理論と実際を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 子どもの発達と造形表現、『表現』とは何か。H. リードの「表現活動を通じた教育」および 子どもの表現について① ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
第2回 /	制作した作品の相互評価と講評 テキスト配布「幼児の造形表現から図画工作教育へ」 子どもの表現について② ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第3回 /	幼児の「あそびと造形表現」、幼児教育における目標と内容を知る(幼稚園・こども園教育要領・保育所指針) ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第4回 /	子どもの表現についての発達過程 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第5回 /	幼児造形教育から図画工作教育への連続性、学習指導要領とは何か？ ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第6回 /	図画工作のねらい（「A 表現」） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第7回 /	図画工作のねらい（「B 鑑賞」、共通事項について） ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第8回 /	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（低学年・中学年） ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第9回 /	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（中学年・高学年） ミニ作品制作 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ		
第10回 /	「造形遊び」の実践と作品制作① 作品制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ 作品制作の実践		
第11回 /	「造形遊び」の実践と作品制作② 作品制作と個別指導と講評 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 作品制作の実践		
第12回 /	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践① 制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第13回 /	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践② 制作と個別指導 ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第14回 /	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践③ 制作と個別指導 制作した作品の相互評価と講評 試験にむけて ワークシート・課題レポート・実践演習	講義、グループトーク、発表、まとめ、 実践と制作		
第15回 /	図画工作における評価、評価の意義、評価活動の要点図画工作の学習指導 学習指導案の作成、試験内容および振り返り ワークシート・課題レポート	講義、グループトーク、発表、まとめ		

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 家庭	家庭科概論 Introduction to Domestic Behavior	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	家庭科教育は子どもに日常生活を営むための知識と技術を体得させ、実践できる能力を獲得させることである。講義では、指導者としてこれに必要な知識・技能の修得をめざす。					
キーワード	家庭、家族、衣食住、食育、消費、環境、SDGs	学修教育目標	1. 家庭科指導の意義と目的、学校教育における家庭科の役割を理解している。 2. 小学校家庭科の教育目標と内容、指導方法、学習評価の考え方を理解している。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
・教材は身の回りにあふれています。新聞や文献、日常生活に気を配り、常日頃から情報を得るよう心がけましょう。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教科教育法（家庭）」、「教科教育法（生活）」						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：文部科学省検定済教科書小学校家庭科用「わたしたちの家庭科5.6」 著者名：鳴海多恵子 石井克枝 堀内かおる 他 出版社：開隆堂出版株式会社			なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学習指導要領「家庭」の内容が説明できる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	衣食住に関する実技の実践ができる。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの生活実態について説明できる。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの生活実態における改善方法を知っている。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	家庭科教育の重要性を認識し、生きる力につなげた考え方ができる。				◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	家庭生活における課題を的確にとらえ、改善案を効果的に提案することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題解決に向けて、モノ・ヒト・コトに関わりながら自発的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の生活を振り返り、課題設定することができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	聞き手にわかりやすい伝達手法やポイントを押さえた的確な話し方ができる。				○
	② 傾聴力	他者の考えや案を肯定的に聞き、視野を広げることができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	正義感や公正さを重んじ、生命を大切にし、人権を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		15	15	15			100
評価 の 指標	知識に関する評価		35		5					40
	技能に関する評価					5	5			10
	応用力に関する評価		10		5		5			20
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		10		5	5	5			25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>家庭科教育の重要性を認識している。 子どもに日常生活を営むための知識と技術を体得させ、実践できる能力を獲得させるための、指導者として必要な知識・技能を修得している。 生活科での内容を取り入れることができる。</p>					<p>家庭科教育の重要性を認識している。 指導者として必要な最低限の知識・技能を修得している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第2回 /	小学校家庭科の目標と意義、育てたい力	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第3回 /	内容A「家族・家庭生活」	演習	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ・レポート	30
	ワークシート			30
第4回 /	内容A「家族・家庭生活」（課題発表と討議）	グループ・全体セッション	予習：レポート発表の準備 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート・討議内容			30
第5回 /	内容B「衣食住の生活」	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第6回 /	内容B「衣食住の生活」食（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第7回 /	内容B「衣食住の生活」食（調理体験の理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第8回 /	内容B「衣食住の生活」食（調理体験）	演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第9回 /	内容B「衣食住の生活」住（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第10回 /	内容B「衣食住の生活」衣（理論と実践）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第11回 /	内容B「衣食住の生活」衣（作品についての理論と実践）	講義・演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ・レポート	30
	ワークシート			30
第12回 /	内容B「衣食住の生活」衣（作品についての討議）	グループ・全体セッション	予習：レポート発表の準備 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート・作品・討議内容			30
第13回 /	内容C「消費生活・環境」・持続可能な社会に向けてSDGs①	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第14回 /	内容C「消費生活・環境」・持続可能な社会に向けてSDGs②	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第15回 /	復習・まとめ	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 体育	体育科概論 Introduction to Physical Education	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>小学校体育に必要な体育学の基礎と小学校体育の保健領域の内容について学習し学習指導要領の理解を深め、授業を実践していくために必要な基本事項を理解し習得することを目的とする。</p>
--------	--

キーワード	よい体育授業	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の特性を理解し、小学校教育における体育の必要性を把握することで、運動に親しむ資質や能力の育成がなぜ必要なのかを理解することができる。 ・身体の発育発達や運動能力の発達といった身体の構造を把握することで、なぜ体力向上が必要なのかを理解することができる。 ・保健領域のねらいを把握することで、なぜ健康の保持増進が必要かを理解することができる。
-------	--------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>体育教科に必要な知識を学ぶ。（スポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法）</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>スポーツマンシップ、フェアプレーの精神、学習指導要領解説（体育編）</p>
--

教科書	参考書・リザーブブック
なし	<p>書 名：小学校学習指導要領解説 体育編 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	体育教科の特性を理解することができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	学習方法を理解することができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	ルールや約束を守り授業に参加することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	体育教科における諸問題を理解することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20	10				80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法、学習評価を理解する。					体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	オリエンテーション 授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 体育科とは コメントシート	講義 コメントシート	・体育、スポーツについて考える（体育、スポーツに求められるもの）	60
第2回 / コメントシート	体育学の基礎的理解 コメントシート	講義 ペアワーク（体育、スポーツに求められるものを考える） コメントシート	・良い授業について考える	60
第3回 / コメントシート	体育科の学習内容論 コメントシート	講義 ペアワーク（良い授業について考える） コメントシート	・学習指導の形態について考える	60
第4回 / コメントシート	体育科の学習指導とその形態 コメントシート	講義 ペアワーク（学習指導の形態について考える） コメントシート	・評価の種類を調べる	60
第5回 / コメントシート	体育科の評価論 コメントシート	講義 ペアワーク（指導と評価の一体化について考える） コメントシート	・スキャモンの発育曲線を調べる	60
第6回 / コメントシート	身体の発育と発達 コメントシート	講義 ペアワーク（スキャモンの発育曲線を分析） コメントシート	・体力向上がなぜ必要かを考える	60
第7回 / コメントシート	運動能力・体力の発達 コメントシート	講義 ペアワーク（体力向上の必要性を考える） コメントシート	・体育における安全確保、安全管理について考える	60
第8回 / コメントシート	安全な身体活動のために コメントシート	講義 ペアワーク（体育の安全について考える） コメントシート	・体力要素を調べ、必要なトレーニングについて考える	60
第9回 / コメントシート	身体運動論（トレーニング論） コメントシート	講義 ペアワーク（必要な体力要素を考える） コメントシート	・環境が健康に及ぼす影響を考える	60
第10回 / コメントシート	保健領域（1） 毎日の生活と健康 コメントシート	講義 ペアワーク（環境と健康の関係性を考える） コメントシート	・薬物乱用について考える	60
第11回 / コメントシート	保健領域（2） 思春期の体の変化 喫煙 飲酒 薬物乱用 コメントシート	講義 ペアワーク（健康を害するおそれのあるものについて考える） コメントシート	・メンタルヘルスについて考える	60
第12回 / コメントシート	保健領域（3） 心の健康 病気の予防 コメントシート	講義 ペアワーク（心のあり方が健康にどのような影響を及ぼすかを考える） コメントシート	・傷害の発生要因について考える	60
第13回 / コメントシート	保健領域（4） けがの防止1（活動中のけがの防止） コメントシート	講義 ペアワーク（どのような環境が傷害に繋がるかを考える） コメントシート	・心肺蘇生法を調べる	60
第14回 / コメントシート	保健領域（5） けがの防止2（救急法） コメントシート	講義 ペアワーク（心肺蘇生法の意義を考える） コメントシート	・体育科の必要性や役割をまとめる	60
第15回 / コメントシート	体育科の必要性（まとめ） コメントシート	講義 ペアワーク（体育科の必要性や役割を考える） コメントシート	・体育科の必要性や役割をまとめる	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 外国語	外国語概論（児童英語） Introduction to Foreign Language (Child English)	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要とされる「実践的な英語運用力」及び「背景的な知識」を実際の授業場面を想定し、身に付ける。また中学校との連携も踏まえる。					
キーワード	英語運用能力 異文化理解 第二言語習得	学修教育目標	《実践的英語力》 授業実践に必要とされる「聞く力・話す力・読む力・書く力」を身に付ける。 《背景的な知識》 英語に関する基本的な事柄「音声・語彙・文構造・文法・正書法等」、「第二言語習得」、「児童文学」、「異文化理解」を理解している。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
2020年4月1日から第3～6学年において英語の授業が必修化された。この英語の教育改革を踏まえ、将来の小学校教員が英語での授業を通して、生徒に教えなければならない重要事項が何であるかをしっかりと理解した上で、グローバル化の時代を生き抜いてゆくためにはどのような英語教育を生徒に施さなければならないかを受講生は学修する。受講生は各自、積極的に意見を述べるよう心掛けること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教科教育法（児童英語）」：英語でのコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語でコミュニケーションを図ることができる基礎を生徒に身に付けさせるような指導法を受講生は学修しなければならない。						
教科書				参考書・リザーブブック		
My TGU.net の授業資料に教材を掲示しています。				書名：小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成29年7月一平成29年告示 著者名：文部科学省 出版社：開隆館出版販売		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校教員にとって、英語授業が必要不可欠となっている現在、その目的と目標を理解し、スムーズな授業運営ができること。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分で考えて授業を組み立てられる。				◎
	② 働きかけ力	分からないことは質問する。				◎
	③ 実行力	組み立てたことを行動にうつす。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	上手いかなかった理由、原因を考える。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の知識、アイデアを仲間と共有する。				◎
	② 傾聴力	他人の意見を聴く。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		59					100
評価 の 指標	知識に関する評価									55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		41		59					45
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小学校外国語活動（英語）の目的と目標を理解し指導につなげることができる。					小学校外国語活動（英語）の目的と目標を理解し指導への興味と関心をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	(一般論：導入) 日本の英語教育：なぜ、「英単語帳」で英単語を覚えさせるのか？	講義	第1回目の授業内容について課題提出	60
第2回 /	(一般論：導入) 日本の英語教育：「受験英語」の指導で「話す・聞く」の実際に通用する英語運用能力を向上させることができるのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第2回目の授業内容について課題提出	60
第3回 /	(一般論：導入) 英検・TOEICなどで「話す・聞く」の実際に通用する英語運用能力を正しく評価することができるのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第3回目の授業内容について課題提出	60
第4回 /	小学校英語教育の現実と問題点：文部科学省のホームページから	講義と演習(提出課題について意見交換)	第4回目の授業内容について課題提出	60
第5回 /	英語で伝え合ったときに、児童に満足感や達成感を持たせるには？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第5回目の授業内容について課題提出	60
第6回 /	児童に「考えさせる」授業とは？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第6回目の授業内容について課題提出	60
第7回 /	英語で児童に発表させるとき、児童が「話したくなる」テーマをどのように選べばよいのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第7回目の授業内容について課題提出	60
第8回 /	TPR 教授法	講義と演習(提出課題について意見交換)	第8回目の授業内容について課題提出	60
第9回 /	英語教育と ICT	講義と演習(提出課題について意見交換)	第9回目の授業内容について課題提出	60
第10回 /	小学校英語教育で文法を教えることは必要なのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第10回目の授業内容について課題提出	60
第11回 /	小学校英語教育とグローバル化	講義と演習(提出課題について意見交換)	第11回目の授業内容について課題提出	60
第12回 /	小学校英語教育と異文化理解	講義と演習(提出課題について意見交換)	第12回目の授業内容について課題提出	60
第13回 /	児童が英語で日本の文化を伝えることができるようになるためには、何から始めていけばよいのか？	講義と演習(提出課題について意見交換)	第13回目の授業内容について課題提出	60
第14回 /	日本の児童英語教育と海外の児童英語教育	講義と演習(提出課題について意見交換)	第14回目の授業内容について課題提出	60
第15回 /	小学校英語教育と道徳教育	講義と演習(提出課題について意見交換)	第15回目の授業内容について課題提出	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 国語（書写を含む。）	教科教育法（国語） Teaching Method (Japanese Language)	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	国語科教育の基礎的・基本的な理論を理解し、小学校現場で実際の指導ができるように、教材研究の方法と留意点について、実践的基礎能力を身に付けさせることをめざす。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	国語科教育の基礎的・基本的な理論の理解 教材研究の方法と留意点	学修教育目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	------------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>（概要） 小学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）、各回要点のまとめプリント（含む・教材）によって及び、国語科教育の基礎理論についての学習と、具体の教材（テキストとしての小学校国語教科書）を使つての指導案作成と模擬授業とを通し、教材研究・授業の創りかたの実際を指導する。</p> <p>（助言） 夢に見た教師になるために必要な講義と心得、自主的・意欲的に受講すること。</p>					
--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>（関連）「国語科概論」および、他教科の「教科教育法」や「子ども発達学基礎演習Ⅱ」における、模擬授業・指導案の書き方等との関連。</p> <p>（予備知識等）「小学校学習指導要領解説 国語編」の通読。</p>					
--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』（文部科学省） 各回要点のまとめプリント（自主制作）・光村図書版全学年上巻小学校国語教科書 佐々木豊 著『あいうえおからのおくりもの—私のイメージ辞典』（メディアアイランド刊） 	野地潤家著『国語教育学研究』（溪水社刊）

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保・幼・小各時期における子どもの言葉の表出について理解することができる。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもたちを意識した音読の仕方や、板書の書き方等の技能を身につけている。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」に、発達段階に応じた指導の違いがあることを理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	具体の教材を模擬指導することを通して、子どもの発達段階に応じた指導を意識することができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職に就くという意識をもって、保・幼・小各時期における子どもたち一人ひとりを思い浮かべて、授業の準備に臨もうとする。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	模擬授業等で、自分なりに工夫した指導案を作成し、よく考えながら取り組むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類（4つの力）	能力要素（13の要素）	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	4		6				20
	技能に関する評価		10	4		6				20
	応用力に関する評価		10	4		6				20
	チームワークに関する評価		10	4		6				20
	関心・意欲に関する評価		10	4		6				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語とは、どのような教科か、どのような学力をめざすのかを考えて、小学校国語科教育の知識や技能を身に付けるとともに、教材や授業について具体的に研究が行える。					小学校国語科教育の知識や技能を身に付けるとともに、教材や授業について具体的に研究が行える。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	国語科で何を教えるのか 指導案の書き方—教材研究—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	言葉の正しさとふさわしさ/説明文の教材研究の仕方を理解する			
第2回 /	授業時間は45分 指導案の書き方—単元計画—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	45分という時間感覚/単元計画の立て方を理解する			
第3回 /	発問について/情報教材取扱い 指導案の書き方—評価規準・基準—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	発問の出し方/評価規準・基準の設定の仕方について理解する			
第4回 /	板書の仕方/読書指導 指導案の書き方—導入・展開・整理—（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	誰のための板書か/1時間の授業の創り方を理解する			
第5回 /	物語の授業 指導案の書き方<指導案発表会>（説明文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	場面の読み取り/資料を参照しながら説明文の指導案が書ける			
第6回 /	説明文の授業 指導案の書き方—教材研究—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	着目の場所/物語文の教材研究の仕方を理解する			
第7回 /	作文の指導 指導案の書き方—単元計画—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	原稿用紙での句読点、「」の書き方がわかる（作文指導用黒板シート） /単元計画を立てることができる			
第8回 /	伝統的教材（古典）の取扱い 指導案の書き方—評価規準・基準—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	60
	声に出して読みたい日本語 /評価規準・基準を設定することができる			
第9回 /	討論・発表の授業 指導案の書き方—導入・展開・整理—（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	日常生活における話し合い活動 /1時間の授業案を作成することができる			
第10回 /	漢字指導 指導案の書き方<指導案発表会>（物語文）	講義と演習	・配布資料予復習	40
	漢字を創る/他人の作成した指導案について批評的に理解することができる			
第11回 /	書写指導について/実技模擬授業①	講義と演習	・配布資料予復習	60
	毛筆、硬筆での書写指導の仕方を理解する。（水書板） /教育実習研究授業を想定し、自分で選んだ教材による模擬授がける			
第12回 /	机間巡視/実技模擬授業②	講義と演習	・配布資料予復習	40
	一斉指導と個別指導 /教育実習研究授業を想定し、一斉指導や個別指導を意識して模擬授がける			
第13回 /	先生の言葉遣いについて/実技模擬授業③	講義と演習	・配布資料予復習	60
	授業参観 /教育実習研究授業を想定し、他人の展開する模擬授業に対して優れたところ、改善すべきところを指摘することができる			
第14回 /	評価・ポートフォリオについて/実技模擬授業④	講義と演習	・配布資料予復習	40
	「評価」の意味 /模擬授業を通して、指導と評価について理解することができる			
第15回 /	この教科のまとめ—教育実習で国語の授業ができる意気込みを持つ—	講義と演習	・配布資料復習	40
	履修カルテを作成することができる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るように努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 社会	教科教育法（社会） Teaching Method (Society)	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	学習指導要領を中心に社会科に求められる児童の学力を追求する。					
キーワード	問題解決学習	学修教育目標	社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
小学校学習指導要領解説 社会編を熟読しておくこと。授業に際しては、各自の問題意識を大切にしながら、教育実習への心構えを学修します。自分にとっての社会学とは何かを考えながら受講すること。自身の周囲を問題意識をもって見直すこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「社会科概論」、「教職実践実習（初等）」、「教育実習指導（小学校）」、「教育実習（小学校）」						
教科書				参考書・リザーブブック		
『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』文部科学省 小学校社会科教科書、地図帳				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	地域産業や消費生活、地理的環境や生活の変化、わが国の国土の様子や産業の様子について、また、我が国の歴史や文化、政治について理解し、社会の形成者を育てることができる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	観察・調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの資料を効果的に活用したり、社会事象の意味や働きなどのついて考え、表現したりする力を育てることができる。				◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。				◎
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価					20				20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>社会科の問題解決的学習に向けた指導案の作成及び、子どもが意欲的に探究できる教材開発や授業展開ができる。</p>					<p>社会科学習のめあてをつかみ、課題を明確に設定して問題解決的な学習を展開することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領における小学校社会科の目標・内容を構造的にまとめる	・講義	・第3・4学年の指導内容（予習）	30
第2回 /	学習指導（1） －第3学年 第4学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第3・4学年の指導内容（復習） ・第5学年の指導内容（予習）	30
第3回 /	学習指導（2） －第5学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第5学年の指導内容（復習） ・第6学年の指導内容（予習）	30
第4回 /	学習指導（3） －第6学年	・講義 ・グループによるディスカッション	・第6学年の指導内容（復習）	30
第5回 /	教材研究と情報機器の活用（1） －第3学年・地域の生産	・講義 ・グループによるディスカッション	・地域素材の教材化について（復習）	30
第6回 /	教材研究と情報機器の活用（2） －第4学年・くらしの移り変わり	・講義 ・グループによるディスカッション	・地図利用、地球儀、年表等教材活用について（復習）	30
第7回 /	教材研究と情報機器の活用（3） －第5学年・情報、産業、国土	・講義 ・グループによるディスカッション	・絵地図作成の活動について（復習）	30
第8回 /	教材研究と情報機器の活用（4） －第6学年・歴史、政治	・講義 ・グループによるディスカッション	・第3学年 指導案作成（復習）	30
第9回 /	教材研究と情報機器の活用（5） －地域素材の教材化、地図利用、読図の基本、地球儀・年表等教材教具の活用	・講義 ・グループによるディスカッション	・第4学年 指導案作成（復習）	30
第10回 /	指導計画の作成 －指導計画作成上の配慮事項 －各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項	・講義 ・グループによるディスカッション	・第5学年 指導案作成（復習）	30
第11回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（1） －指導課程と教材を中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・第6学年 指導案作成（復習）	30
第12回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（2） －学習者の反応と発問を中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（3・4年）実施のまとめ（復習）	30
第13回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（3） －模擬授業とその振り返りを中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（5年）実施のまとめ（復習）	30
第14回 /	学習指導案の作成及び模擬授業（4） －模擬授業とその振り返りを中心に	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（6年）実施のまとめ（復習）	30
第15回 /	授業における評価 －評定、評価（相対・絶対、規準・基準）	・講義 ・グループによるディスカッション	・模擬授業（6年）実施のまとめ（復習）	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 算数	教科教育法（算数） Teaching Method (Mathematics)	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	算数科の教材研究、学習指導案の作成を学修し、それをもとに模擬授業を行うことで、実践的な算数の教育法を身に付ける。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標と評価の観点・規準 ・問題解決的な学習と言語活動の活性化 ・アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び） 	学修教育目標	算数科における教育目標、育成をめざす資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもを前にした実際の授業を想定した学習指導案を作成することが重要です。さらに、子どもの関心・意欲や思考力・判断力・表現力を高める指導のあり方を模索するために進んで模擬授業に取り組んでください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

算数科概論						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編』 著者名：文部科学省 出版社：日本文教出版			授業中に適宜指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	指導内容についての専門的な知識を身につける。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	指導方法についての専門的な技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達に応じた指導方法を工夫する。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	授業に対する関心・意欲・態度や言葉遣いをはじめ、子どもに対する配慮や人権感覚を身につける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20	10		20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価					10	10			20
	応用力に関する評価		20			10				30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 算数科における指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した問題解決的な学習（指導案）を計画することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 算数科における指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した指導を計画することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領（算数科）の目標について	・講義 ・グループによるディスカッション	学習指導要領についての復習	30
第2回 /	学習指導要領（算数科）について －内容：領域の系統性、関係性－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	学習指導要領についての予習	30
第3回 /	算数科学習指導の基礎理論（1） －学習指導の目標と評価（評価の観点と規準）－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション ・模擬授業（算数的活動）	学習指導要領についての復習	30
第4回 /	算数科学習指導の基礎理論（2） －アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	アクティブラーニングについての予習	30
第5回 /	算数科学習指導の基礎理論（3） －問題解決的な学習、言語活動の活性化 等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	問題解決的な学習、言語活動の活性化についての復習	30
第6回 /	算数科学習指導の基礎理論（4） －児童理解と発問・板書・机間指導 等－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	算数科学習指導についての復習	30
第7回 /	模擬授業の方法とその意義 －単元決定と内容・教材研究、情報機器の活用、指導の構想－ 振り返りを書く	・講義 ・グループによるディスカッション	模擬授業に関する資料収集	30
第8回 /	指導案作成と模擬授業(1) －「数と計算」領域（1～3年）の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第9回 /	指導案作成と模擬授業(2) －「数と計算」領域（4～6年）の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第10回 /	指導案作成と模擬授業(3) －「測定」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第11回 /	指導案作成と模擬授業(4) －「図形」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第12回 /	指導案作成と模擬授業(5) －「変化と関係」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の作成	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	教材研究・指導案の作成	30
第13回 /	指導案作成と模擬授業(6) －「データの活用」領域の教材分析－ アドバイスカードを書く、指導案の改善	・模擬授業 ・全体での意見交流 ・指導助言	模擬授業についての復習	30
第14回 /	算数教育の視点からの模擬授業の振り返りと意見交流 振り返りを書く	・模擬授業 ・グループによるディスカッション	指導案の改善	30
第15回 /	授業における評価 －評定、評価（相対・絶対、規準・基準）－ 振り返りを書く	・模擬授業 ・グループによるディスカッション	算数科学習指導についてのまとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 理科	教科教育法（理科） Teaching Method (Science)	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	理科の系統的な理解のために必要な知識、教材、授業方法、評価などを学修する。					
--------	---------------------------------------	--	--	--	--	--

キーワード	新学習指導要領 問題解決学習 問題解決能力 認知・動機 自然観 リポイジング 授業デザイン	学修教育目標	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

理科における問題解決学習の意味を知り、学習プロセスにおける認知・動機の働きの理解を図ることで、理科を授業することの意味を分かるとともにどのように授業を行うのか、その方法を講義や授業ビデオを通して学ぶ。 同じ授業のビデオを視聴しても、理科教育の知識を増すことにより授業の見える世界が増えてくることを自覚できるようになってほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

人がどのように認知（思考・判断・知識）するのかは基本的構造は変わらない。教科によって使う知識は異なるが、その知識を活用して新しい知識を構成していく構造は共通性が多い。また、人の動機を含む情意的側面は認知にとって欠かすことが出来ないものであり、情意的側面は認知によって影響を受ける。その視点で他の科目も見てほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：小学校学習指導要領解説 理科 平成30年2月発行版 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	理科教育及び理科授業デザインの知識を使える。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	理科授業方法についての技能を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	自然認識の発達についての知識を授業デザインで使える。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達に応じた教材提示や実験技能の知識を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	理科授業を通して自然に親しみ、自然科学についての批判的思考を行える。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	理科教育の実践知を身に着ける努力をレポートなどで行う。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自然は主体的に見ないと見えてこない。子どもに対しても主体的でないと見えてこない。	◎
	② 働きかけ力	自然に働きかけることで、自然も答えをくれる。それは教職においても同じであること。	○
	③ 実行力	理科の問題解決を実行する力は、教職での問題解決する実行力に繋がる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自然の何の問題を解決する必要があるのかを発見する力は、教職での問題発見能力に繋がる。	○
	② 計画力	理科の問題解決を構想する力は、教員として授業をデザインする力に繋がる。	○
	③ 創造力	理科の問題解決を考え続ける力は、創造力に繋がる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	理科の問題解決においてどのように表現（仮説・実験方法等）すれば良いのかは、発信力に繋がる。	○
	② 傾聴力	問題解決において、自然や友達の声を聴くことは大切な力。社会人としても同じ。	◎
	③ 柔軟性	自然を多面的・多層的に見る柔軟性が豊かな問題解決を生む。社会人としても同じ。	○
	④ 状況把握力	理科の問題解決において自然の様々な状況を把握し分析する力は大切。社会人としても同じ。	○
	⑤ 規律性	理科の実験や観察はチームで行う。そこでの規律性が問題解決の可否を生む。社会人としても同じ。	△
	⑥ ストレスコントロール力	自然の変化はこちらの思うようにはいかない。理科の問題解決はその連続。社会人としても同じ。	△
4. 倫理観	① 倫理性	人の心の命を預かっているという自覚と行動	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			10	10		30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25				5		15	45
	技能に関する評価					10	5			15
	応用力に関する評価		25						15	40
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
試験、模擬授業、指導案レポートの内容に、学修したことを基にした理科授業における子どもの具体的な姿を含めて表現できている。					授業で学修した理科授業の要点を表現できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領の変遷・優秀授業ビデオ視聴とその感想	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	コメントシート			
第2回 /	学習指導要領の目標及び内容・優秀授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第3回 /	理科における子どもの問題解決（1） －事象提示と指導 ・問題解決授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第4回 /	理科における子どもの問題解決（2） －観察・実験と考察・結論 ・問題解決授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第5回 /	「A物質・エネルギー」に関する教材研究（1） －粒子 ・粒子授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第6回 /	「A物質・エネルギー」に関する教材研究（2） －エネルギー ・エネルギー授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第7回 /	「B生命・地球」に関する教材研究（1） －生命 ・生命授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第8回 /	「B生命・地球」に関する教材研究（2） －地球 ・生命授業ビデオ視聴とその感想	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第9回 /	教材研究と情報機器の活用 －地域素材や学校外施設・人材及びメディアの効果的な活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第10回 /	理科学習指導案（1） －観察、実験における安全指導（薬品管理）	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第11回 /	理科学習指導案（2） －学習指導案作成	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30 90
	ワークシート（指導案）			
第12回 /	理科学習指導案（3） －模擬授業	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第13回 /	理科学習指導案（4） －模擬授業・質疑応答	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			
第14回 /	理科学習指導案（5） －模擬授業・事後研究	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：レポート作成	30 90
	ワークシート			
第15回 /	理科授業まとめと自分への課題	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30 30
	ワークシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 生活	教科教育法（生活） Teaching Method (Life)	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	生活科は、現代の児童にとって、より重要になってきています。その理由は、今後の講義で明らかになってきますが、その生活科の誕生や果たす役割について学修します。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と評価の3観点 ・自立への基礎 	学修教育目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもを前にした実際の授業を想定した学習指導案を作成することが重要です。さらに、子どもの関心・意欲・態度や思考力・判断力・表現力を高める指導のあり方を模索するために進んで模擬授業の資料作成及び発表に取り組んでください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

生活科概論						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編』文部科学省			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	指導内容についての専門的な知識を身につける。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	指導方法についての専門的な技能を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達に応じた指導方法を工夫する。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	授業に対する関心・意欲・態度や言葉遣いをはじめ、子どもに対する配慮や人権感覚を身につける。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30	10		10	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20				10			30
	技能に関する評価					20				20
	応用力に関する評価		30							30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価					10			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 生活科における指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した問題解決的な学習を計画することができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 生活科における指導内容と指導方法についての理解をもとに、指導の具体的な計画を立てることができる。 模擬授業を想定した学習を計画することができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生活科の目標（1） －教科目標の構成、趣旨－	講義、演習	生活科についての復習	30
第2回 /	生活科の目標（2） －学年の目標の設定、趣旨－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての予習	30
第3回 /	生活科の内容 －内容構成の考え方、内容－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第4回 /	生活科の内容 －（1）～（4）と指導法－ ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第5回 /	生活科の内容 －（5）～（9）と指導法－ ワークシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
第6回 /	指導計画案の作成と内容の取扱い －配慮する事項－ 振り返りシート	講義、演習	生活科についての復習	30
第7回 /	指導計画案の作成と学習指導 振り返りシート	講義、演習	幼稚園・保育園の活動についての予習	30
第8回 /	年間指導計画案作成についての配慮事項 振り返りシート	講義、演習	総合的な学習の時間についての予習	30
第9回 /	生活科の学び（1） －思いや願いを追求する学習過程と効果的な教材（教材研究を含む） や情報機器の活用－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第10回 /	生活科の学び（2） －気づき、思考、表現と効果的な教材（教材研究を含む）や情報機器 の活用－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第11回 /	生活科の学び（3） －評価－ 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（予習）	30
第12回 /	生活科の学習指導案の作成 振り返りシート	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第13回 /	模擬授業を通じた学習指導の進め方 模擬授業資料	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第14回 /	生活科から「総合的な学習の時間」へ 模擬授業資料	講義、演習	模擬授業資料作成（復習）	30
第15回 /	まとめ 確認と振り返り 振り返りシート	講義、演習	ワークシートのまとめ（復習）	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 音楽	教科教育法（音楽） Teaching Method (Music)	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	音楽教育の意義、表現方法・評価など、必要な知識・技能の習得を果たす。また、進んで音楽指導者として、それぞれの楽曲の意味内容の理解と表現力の涵養を目指す。
--------	--

キーワード	音楽科教育・指導法	学修教育目標	音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、模擬授業を通して想定した授業設計を行う方法と実践力を身に付ける。
-------	-----------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

小学校音楽科の目標・内容・方法など、教科の構成理論について学ぶとともに、領域ごとの教材研究及び事例研究を通して、授業計画や学習指導案の作成について理解する。これらに関する知見を活かし、音楽科の授業を担当するために必要な演奏技能や指導法の習得をめざす。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

- ・ピアノの基本的奏法
- ・歌唱、器楽に関する基本的知識

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『小学校音楽 音楽1～6』 文部科学省検定教科書 著者名：小原光一監修他 16名 出版社：教育芸術社 ISBN978-4-87788-816-9C4373/ISBN978-4-87788-817-6C4373/ISBN978-4-87788-818-3C4373/ISBN978-4-87788-819-0C4373/ISBN978-4-87788-820-6C4373/ ISBN978-4-87788-821-3C4373	書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導』 監修：小島律子 出版社：廣済堂あかつき

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校音楽科の授業構成原理について理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	小学校音楽科の授業を実施するために必要な演奏技能及び指導・支援に必要な技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自己の課題を明確にして授業に臨むことができる。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。	○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。	◎
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。	○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。	○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20	30				100
評価の 指標	知識に関する評価		25		10					35
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワーク力に関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		5		10	5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科の指導内容や指導上の留意点等について十分理解することができる。 ・人前での演奏や助言に関して、教師として適切な判断や行動をすることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・小学校音楽科の指導内容や指導上の留意点等について、一定程度理解することができる。 ・人前での演奏や助言に関して、教師の役割を意識した振る舞いができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	音楽教育の意義・目的について	講義	予習：学習指導要領の通読 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第2回 /	音楽科の目標と内容（学習指導要領解説）	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：楽典課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第3回 /	各領域および「共通事項」の内容	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：楽典課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第4回 /	指導計画案作成上の配慮事項	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第5回 /	内容の取扱いにおける配慮事項	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第6回 /	A表現「歌唱」の教材研究と情報機器の活用、指導法 －低学年、中学年、高学年に応じた教材	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第7回 /	A表現「歌唱」の指導法 －声づくりでの注意及び男子の変声期の指導方法	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：編曲課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度			
第8回 /	A表現「器楽」の指導法 －音符の長さとの息の使い方 ソプラノリコーダー	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第9回 /	A表現「器楽」の指導法と模擬授業 －鍵盤楽器と指使い、五線紙との関係	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第10回 /	A表現「音楽づくり」の指導法と模擬授業 －手作り楽器による音楽づくり	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第11回 /	A表現「音楽づくり」の指導法と模擬授業 －ボディパーカッションによる音楽づくり	個別演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：編曲課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、演奏技能、参加態度、模擬授業			
第12回 /	B鑑賞の指導法 －歌唱・鑑賞共通教材の鑑賞	講義・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	発言、ワークシート、参加態度			
第13回 /	B鑑賞の指導法と模擬授業 －郷土の伝統音楽や民謡の鑑賞	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：歌唱練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第14回 /	学習指導案の作成 －A表現及びB鑑賞 評価の方法	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度、模擬授業			
第15回 /	模擬授業及び、相互評価	演習・グループワーク	予習：今回の学修内容 復習：器楽練習	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 図画工作	教科教育法（図工） Teaching Method (Arts and Crafts)	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	図画工作科の意義を知り、素材の特色から子どもの特性に応じた表現が選択できるように多彩な表現方法を学ぶ。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	生み出す力	学修教育目標	図工科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	-------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

子どもの表現力について学び、発達段階においての表現について考察する。 また、図工の教育での結果だけではないプロセスの大切さを学ぶ。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

履修に必要な予備知識や技能は特になし						
--------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

『小学校学習指導要領解説（最新版）図画工作編』文部科学省			その都度、授業で示す。			
------------------------------	--	--	-------------	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	美術表現による教育のための基礎的内容を身につける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、理解を深める。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	発達段階に於ける感性を考察し、それに応じた表現方法を学ぶ。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	相手の立場に立ち物事を考える力を持つ。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	柔軟な思考力を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。	◎
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。	◎
	③ 創造力	複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	◎
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる。	◎
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45			55				100
評価 の 指標	知識に関する評価		5			10				15
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワークに関する評価		5			10				15
	関心・意欲に関する評価		15			15				30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
美術（図工）を学び、その表現方法を知ることにより実践で役に立つまでの知識と理解と思考力を持ち得る。					美術（図工）を学び、作品表現の為の素材の特性を理解し、作る楽しさや表現の喜びを感じるにより、生み出す力の大切さを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小学校学習指導要領「図画工作」の解説（目的と性格）	講義及び演習	指導要領「図画工作」について学ぶ。	10
	戦後の教育課程の返還と社会の変化について知る。			
第2回 /	図画工作の目標及び内容 －「表現」、「鑑賞」	講義及び演習	鑑賞教育について学ぶ。	10
	自分の意見をしっかりと述べるができる。			
第3回 /	子どもの発達特性と学年目標、内容との関連	講義及び演習	図画工作における子どもの発達段階について学ぶ。	10
	年齢による児童の変化を知る。			
第4回 /	各学年の造形的な創造活動の特徴	講義及び演習	描画材料について調べる。	10
	描画材料の種類を知色彩の知識を得る。			
第5回 /	内容と指導法（1） －A表現「造形遊び」	講義及び演習	造形遊びを調べる。	10
	造形遊びへの理解			
第6回 /	内容と指導法（2） －A表現「絵や立体」	講義及び演習	描画材料について学ぶ。	10
	子供の作品への理解			
第7回 /	内容と指導法（3） －A表現「工作」	講義及び演習	工作材料について学ぶ。	10
	素材への理解			
第8回 /	内容と指導法（4） －B鑑賞	講義及び演習	色彩心理を調べる。	10
	積極性			
第9回 /	授業の組み立て方（年間指導計画案）と教材研究、評価について	講義及び演習	子供の発達段階に応じた図工課題を考える。	10
	課題の適正			
第10回 /	子どもの発達特性と指導に関する配慮事項	講義及び演習	発達段階と指導上の留意点を学ぶ。	10
	課題への取り組み方			
第11回 /	図画工作科と「環境」「福祉」等との横断的な取り扱い	講義及び演習	共同制作に適した課題を考える。	10
	積極性			
第12回 /	学習指導案の作成方法	講義及び演習	学習指導案の書き方を学ぶ。	10
	指導案の内容			
第13回 /	指導案作成の課題提示	講義及び演習	学習指導案を書く。	10
	指導案の内容			
第14回 /	表現と鑑賞の関連を図った指導法	講義及び演習	学習指導案を書く。	10
	指導案の内容			
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義及び演習	教育における美術の役割について考える。	10
	課題への取り組み方			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 家庭	教科教育法（家庭） Teaching Method (Domestic Behavior)	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	講義による家庭科教育の理解と実技・実習を通じての実践的な取り組みにより、家庭科の教師としての必要な知識、技能を獲得する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	家庭、衣食住、生活、食育	学修教育目標	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	--------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

・集中講義のため、模擬授業までの時間が限られています。事前に家庭科の教科書の内容を復習し理解しておくこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「家庭科概論」、「教科教育法（生活）」						
---------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
『小学校学習指導要領解説（最新版） 家庭科編』（文部科学省）			追って指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学習指導要領「家庭」の内容が説明できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	衣食住に関する実技の実践、指導ができる。	△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの生活実態について説明できる。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの生活実態における具体的な改善方法を知っている。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	家庭科教育の重要性を認識し、生きる力につなげた考え方、指導ができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	家庭生活における課題を的確にとらえ、改善案を効果的に提案し指導することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題解決に向けて、モノ・ヒト・コトに関わりながら自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	自ら他者と共同して課題解決などに取り組むことができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の生活を振り返り、課題設定することができる。	○
	② 計画力	課題解決に向けて計画を立てられる。計画が遂行できない場合は、計画を見直すことができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	相手の気持ちになって考え、行動することができる。グループ作業が円滑に進むよう行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	正義感や公正さを重んじ、生命を大切にし、人権を尊重することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		15	40				100
評価 の 指標	知識に関する評価		15			10				25
	技能に関する評価		10		10	15				35
	応用力に関する評価		10			5				15
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10		5					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>児童の実態に適した教材・教具や発問を工夫して指導案を作成し、児童役の学生が楽しかった・わかった・できるようになったと振り返りを書くような模擬授業が実施できた。</p>					<p>児童の実態に適した教材・教具や発問を工夫して自分なりに指導案を作成することができた。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	小学校家庭科教育の意義とねらい	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	ワークシート			
第2回 /	小学校家庭科教育のあゆみ －変遷と教育課程	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第3回 /	家庭科の学習指導要領 －家庭科の目標、内容	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第4回 /	家庭科における学習指導 －考え方、育てたい力、方法、より充実した指導	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第5回 /	家庭科における学習評価 －意義、方法、活かし方	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第6回 /	指導と評価の計画（1） －考え方、年間指導計画案作成上の留意点	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ	30
	ワークシート			30
第7回 /	指導と評価の計画（2） －学習指導案の作成	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第8回 /	小学校家庭科の授業づくり（1） －「家庭生活と家族」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第9回 /	小学校家庭科の授業づくり（2） －「日常の食事と調理の基礎」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義、演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第10回 /	小学校家庭科の授業づくり（3） －「快適な衣服」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第11回 /	小学校家庭科の授業づくり（4） －「快適な住まい」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第12回 /	小学校家庭科の授業づくり（5） －「生活に役立つ物の製作」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義、演習（実技）	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート、コメントシート			60
第13回 /	小学校家庭科の授業づくり（6） －「身近な消費生活と環境」の学習 今日の課題と学習のねらい、授業例、教材研究、情報機器の活用	講義	予習：テーマに関する事前学習 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	30
	ワークシート			60
第14回 /	模擬授業	講義、演習（模擬授業）	予習：模擬授業発表準備 復習：授業内容のまとめ 指導案作成	90
	コメントシート			60
第15回 /	模擬授業の振り返り まとめ	講義、演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容のまとめ レポート作成 社会人基礎力事後評価シート作成	60
	コメントシート			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 体育	教科教育法（体育） Teaching Method（Physical Education）	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。 わが国の小学校体育科における、目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	体育科の目標、内容、指導法	学修教育目標	体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
-------	---------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

1. 体育科の理念の変遷と学習指導要領の目標、内容、方法及び児童の発達課題について理解する。 2. 各領域における内容と指導上の留意点を理解する。 3. 指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。 4. 小学校教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

児童の成長・発達に応じた運動課題の適時性などの基本的知識						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『小学校学習指導要領解説（最新版）体育編』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校体育科における目標・内容・方法について基本的内容を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	学習目標に応じた指導方法についての基本的技能を身に付ける。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	児童の発達段階を踏まえた運動特性の理解	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	児童の発達段階を踏まえた指導技能を身に付ける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	小学校体育の指導を行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	小学校体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において活用することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10				10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	体育科の変遷と改訂のねらい 体育科の目標、内容 －教科の目標、学年の目標、内容構成、各領域の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第2回 /	各学年の目標及び内容（1） －第1学年及び第2学年の目標及び内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第3回 /	各学年の目標及び内容（2） －第3学年及び第4学年の目標及び内容、体育の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第4回 /	各学年の目標及び内容（3） －第5学年及び第6学年の目標及び内容体育の内容	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第5回 /	指導計画案の作成と内容 －指導計画案作成上の配慮事項（認知特性・合理的配慮） －内容の取扱い －体育・健康に関する指導	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第6回 /	学習指導のポイントと指導案の作成・運動領域（1） －体づくり運動、器械運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第7回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（2） －走・跳の運動、陸上運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第8回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（3） －水泳	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察、協働活動の観察			
第9回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（4） －ボール運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第10回 /	学習指導のポイント指導案の作成・運動領域（5） －表現運動	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			
第11回 /	学習指導のポイント指導案の作成・保健領域（6） －保健 体育の評価方法	講義・演習	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察、協働活動の観察			
第12回 /	模擬授業（1）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第13回 /	模擬授業（2）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第14回 /	模擬授業（3）	講義・演習	資料の収集と整理	30
	協働活動の観察、他者評価			
第15回 /	まとめ ー全体の確認と振り返りー	講義	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と観察			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 外国語	教科教育法（児童英語） Teaching Method (Child English)	2単位	必修	講義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	英語の教育理論を導入として小学校の英語指導者に求められる能力について考察し、必要な技能の習得を果たす。					
キーワード	英語指導者 実習	学修教育目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基礎的な知識や指導技術を身に付ける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
「外国語概論（児童英語）」を基礎知識として、実際の授業運営に必要な技能を学んでいく。「Hi、 friends! 1、 2」を使用して教案をたて、英語授業を実践する。はずかしがらず常に工夫し能動的であること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「外国語概論（児童英語）」と全ての英語授業に関連する。英語力をあげていくこと。						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：『小学校英語教育法入門』 著者名：樋口 忠彦 他 出版社：研究社				『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語活動・外国語』文部科学省		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	小学校における英語教育の在り方を知り、英語授業の運営方法を理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	英語で授業ができるようになること。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分で考えて授業を組み立てられる。				◎
	② 働きかけ力	クラスを動かしていくことができる。				◎
	③ 実行力	組み立てたことを行動にうつし、クラス運営を行う。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	上手いかなかった理由、原因を考える。				◎
	② 計画力	教案の工夫。				◎
	③ 創造力	自分のアイデアをもつ。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の知識、アイデアを仲間と共有する。				◎
	② 傾聴力	他人の意見を聴く。				◎
	③ 柔軟性	自分の考えに固執しない。				◎
	④ 状況把握力	クラス全体を把握する。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				△
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価			10		10				20
	応用力に関する評価					15				15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教材、副教材を自由に使いこなし、英語でクラスの運営と授業ができる。					教材、副教材の使い方がわかり、教案、指導案がかける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学習指導要領における外国語活動 －教科化の経緯と目的、理念、目標	講義、グループワーク	第2回授業の予習	40
	講義シート			
第2回 /	外国語教育における小学校の役割 －小・中・高の外国語教育	講義、演習	第3回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第3回 /	授業観察 －授業映像を通じた小・中・高の授業観察及び振り返り	演習、グループワーク	第4回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第4回 /	外国語の意義と方向性（1） －母語習得と第二言語習得、発達心理学と学習者要因	講義、演習	第5回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第5回 /	外国語の意義と方向性（2） －コミュニケーション能力、神経言語学、国際理解教育	講義、演習	第6回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第6回 /	児童の発達段階に即した授業づくり	講義、演習、グループワーク	第7回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第7回 /	授業体験 －教員による模擬実演と振り返り	演習、グループワーク	第8回授業の予習 レポート作成	40
	演習、講義シート、小テスト			
第8回 /	指導者の役割、資質と能力 －指導者と指導形態、指導者の役割、求められる資質と能力	講義、演習	第9回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第9回 /	教材の構成と内容 －教材の役割と使用法、テキスト作成の基本方針	講義、演習、グループワーク	第10回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第10回 /	指導目標、領域別目標、指導案、年間指導計画の立て方 －指導目標、領域別目標、指導案、年間指導計画の設定と具体例	講義、演習	第11回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第11回 /	4技能の指導	演習、グループワーク	第12回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第12回 /	模擬授業（教材の研究及び教材、教具の活用法） －望ましい活動の条件と活動の選択・開発の視点及び具体例 －情報機器の活用法（ICT等の情報機器）、作成方法、留意点	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第13回授業の予習	40
	演習、講義シート、小テスト			
第13回 /	模擬授業（指導方法と指導技術） －活用できる・望ましい指導法（チーム・チーリング等）、活用したい指導技術	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第14回授業の予習	40
	講義シート、小テスト			
第14回 /	模擬授業（評価のあり方） －評価、評価方法（パフォーマンス評価等）、望ましい評価のあり方、留意点	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	第15回授業の予習	40
	講義シート、小テスト			
第15回 /	模擬授業 －計画から実施、振り返り	学生による授業とそれに対するコメント指導、講義	レポート作成	40
	講義シート、小テスト			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。